

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	60	学校名	池新田高等学校	校長名	佐野 文子
------	----	-----	---------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣を確立し、豊かな心を育む。	他者の話をしっかりと聴くことができる生徒 80%以上	93.7%	A	前年度同様の水準で達成することができた。良い習慣が身に付いていると感じる。
		身だしなみを自ら正す生徒 90%以上	94.0%	A	前年度同様の水準で達成することができた。全員が自覚的に整えられるよう指導したい。
		自他の人権が尊重されていると実感する生徒 90%以上	90.0%	B	目標達成しているが、残り 10%の意を念頭に置いて改善したい。
		健康や安全に関する高い意識を持つ生徒 80%以上	82.4%	A	目標達成しているが、昨年度との比較ではマイナスとなっている。
		朝食摂取率 90%以上	83.3%	B	学年によるばらつきが大きい。引きつづき啓発に努めたい。
		欠席率 1.5%以下 遅刻率 0.8%以下	欠席率 2.7% 遅刻率 0.8%	B	長期欠席の生徒を除けばおおむね満足できる状況にある。生徒の内面のケアも進めたい。
		共生・共育から学ぶことが多いと実感する生徒 80%以上	72.0%	B	コロナ禍においてかわりが制限される中でおおむね満足できる。新たな取組を検討したい。
		読書感想文を通して心が豊かになったという生徒 70%以上	55.0%	C	単発の読書感想文だけでは、十分な結果は得られない。感想文の代わりに本の紹介文を書いた生徒はなおさらである。「読書活動全体を通して」という目標に改めたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	基礎学力の確実な定着と主体的に学ぶ態度を育成する。	学びの基礎診断等を活用して、基礎学力が向上したと実感する生徒 80%以上	59.7%	C	スタディサプリへの取組を国数英で進めたが、効果は限定的であった。より効果的な活用を検討したい。
		プロジェクト等の ICT 機器を活用した授業を行っている教員 90%以上	90.0%	A	教員用 iPad の貸出率が高く、生徒の活用も広まってきている。今後はより効果的な活用を研究していきたい。

	観点別評価の実施を通して生徒の学習改善につながる授業改善を行っている教員 80%以上	90.0%	A	生徒の実態をより把握できるようになってきており、さらなる授業改善が期待できる。
	授業中に教員が褒めたり励ましてくれたりすると感じる生徒 80%以上	82.3%	B	目標達成しているが、今後目標値を再検討し、向上させていく必要がある。
	到達度に応じた授業を実践している職員 90%以上	96.7%	A	観点別評価の実施に伴い、教員の授業改善が促進されている。
	授業に意欲的に取り組む生徒 90%以上	92.1%	A	教員の授業改善が生徒の意欲向上に結びついている。
	OJT チーム職員の授業を参観する職員 80%以上	他教員の参観をした人 90.0%	A	OJT チームに限ったチェック方法をとっていなかったことが課題である。参観の割合は年々上がってきている。
	年間 5 冊以上本を読んだ生徒 70%以上	47.2%	C	毎朝MTで読書を行い、新たに希望の書物をHR文庫として置くことによって読書活動を進めた。普通であれば5冊は読むと思うが、MTでの読みかけを家で読まない、読むスピードが遅いのが原因と思われる。
	各種説明会やインターンシップ等の進路指導、行事が十分行われていると答える生徒 90%以上	93.1%	A	グローバルハイスクール事業との連携もあり、進路行事を充実させることができた。第1学年からより系統的な進路指導・行事が実施できるよう改善を図りたい。
	一人一人に適した丁寧な進路指導が行っていると答える生徒 80%以上	88.0%	A	新たに教科ティーチャー制を設けたことにより、個に応じた進学指導に取り組むことができ、進学実績に繋がった。
	生徒主体でしぶき祭や体育大会などの行事が行われると答える生徒 80%以上	89.3%	A	目標達成しているが、前年度より微減している。状況に応じた仕組みづくりや働きかけをしていきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	社会の一員としての自覚を持ち、自らの進路を切り拓く力を育む。	学習支援ボランティア定員充足率 100%	100%	A	定員を満たす十分な応募があった。
		池高チャレンジ&サポート事業申請数 2名以上	11名(2件)	A	校外活動の情報収集をし、積極的な呼びかけをしていく。

		地域探究学習を通じて、地元に対する魅力を発見し働くことにやりがいや喜びを感じたことができた と答えた生徒 80%以上	93.1%	A	グローバルハイスクール事業との連携により、全学年において地元との関りを持つ機会に恵まれ、地域探究活動を充実させることができた。
--	--	---	-------	---	---

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	学校行事や部活動等を通してたくましい力や豊かな感性を培う。	部活動に積極的に参加する生徒の割合 80%以上	86.2%	A	目標達成しているが、前年度より微減している。コロナ禍による活動制限の影響もあると思われる。
		年5回以上生徒表彰を行う。	5回	A	始業式、終業式時に実施できた。
		芸術鑑賞教室を通して心が豊かになったという生徒 70%以上	97%	A	今年度は音楽コンサートだったが、生徒の楽器体験や吹奏楽部とのコラボなど、会場を巻き込んだステージであったため好評であった。業者選択が大きく左右する。
		校内の環境美化に努める生徒 90%以上	84.5%	B	清掃への取組は向上しているが、ごみの放置をなくすよう指導していきたい。
		相談室が使いやすいと感じる生徒 70%以上	71.1%	A	スクールカウンセラーだけでなく、教員による相談も充実させたい。
		支援を必要とする生徒の事例を共有し、チームで支援を行っていると感じる教員 70%以上	83.4%	A	引き続き情報を各担当で共有し、支援を行っていきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	安心して安全して生活できる校内環境整備を行う。	防災訓練により避難行動を理解し、防災意識も高まっていると答える生徒 80%以上。	90.6%	A	地震の避難訓練（1学期）、DVD・スモークハウス体験（2学期）、津波の避難訓練（3学期）
		地域防災に参加したと答える生徒 60%以上	実施せず	—	新型コロナ対応のため、今年度も実施しない地区が多かった。
		いじめが原因となった不登校 0件	2件3名	C	不登校気味になった生徒が3名いた。まずはいじめが起きにくい環境づくり、次いで生徒が相談しやすい体制づくりに注力したい。

	先生を信頼する生徒 70%以上	82.7%	A	前年度比+8.7%と有意に上昇した。今後も指導と支援の両輪を大切にしたい。
	重大な交通事故0件	0件	A	4月に交通安全教室を開催した。軽微な交通違反は少数あり。
	1日体験入学、オープンスクール、学校説明会への中学生参加延べ300人以上	283人	B	いずれの事業も広報を十分に行い、内容も充実させて本校の魅力を印象付けることができ、参加者からの評価は高かった。参加数が目標に達しなかったのは、広報や内容だけによる結果ではないと考えられる。
	施設・整備は安全に整備され使いやすく整備されていると答える生徒の80%以上	80.5%	A	本館各階の学習室にも空調機が設置され学習環境の改善が図られた。校内の破損等不具合箇所の修繕も保健課の協力もあり随時対応している。引き続き環境整備に努めていく。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ	地域と連携する開かれた学校づくりを推進する	P T A 総会出席率50%以上	出席率 31.3%	B	前年度よりは上昇した。総会後の内容を検討する。
		P T A活動は活発であると答える保護者・教員70%以上	保護者 53.1% 教職員 63.3%	B	P T A活動の見直しをする。広報に力を入れる。
		地域貢献、地域活動に何らかの形で参加する部活動の割合100%	74.3%	C	コロナ禍の影響で、地域との繋がりを持つことが難しかった。
		進学後も含め、地域に戻ってきたいと思う生徒80%以上	91.9%	A	県外への就職・進学者は合計10人(8%)なので、概ね9割以上の三年生が地域へ帰還することが予想できる。
		中学校時代、本校の広報活動が学校選択の参考となったと答える新入生80%以上	67%	B	一日体験入学、オープンキャンパス等は満足度が高かったが、HP等は更に更新回数を増やす必要がある。
		監査指摘事項0件	0件	A	今年度監査における指摘事項は0件であった。引き続き、事務処理の適正執行に努めていく。
		職員室施錠時間21時以前	平均施錠時刻 20:32 (8月を除く)	A	すべての月で21時以前に職員室を施錠できた。
		県実施調査のストレス値(学校全体)が県平均を下回る。	ストレス値 県平均 84 本校 71	A	すべての項目について県平均か、それ以上であった。今後一層個別の教職員の勤務状況の把握に努める。

